

2025 年度国際交流事業

—韓国：ソウル市、中国：成都市、広州市、珠海市における研究交流・学校訪問—

授業：グローバル教育実践演習

高 見 潤

1 講義について

本科目は東アジアの学校教育を参与観察し、その特色を日本と比較し、共通点と相違点を理解することを目指す。そのために①教育研究、②学校での授業実践、③地域教育施設見学の3つの交流活動を通して、グローバル社会の教育課題を理解する方法論を実践的に獲得することをねらいとした2単位の選択講義である。

2 講義計画

今年度は、韓国、中国を訪問した。年度初めに日程調整を図りながら、以下の計画のもと、韓国ではソウル教育大学校、ソウル日本人学校。中国では四川師範大学（会場：錦江賓館貴賓楼）、北京師範大学珠海校区、京師南奥実験学校を訪問した。

(1) 授業

選択（集中 後期開講）

グローバル教育実践演習

(2) 参加者

大学教員	10名
教職大学院生	10名
創生学部生	3名
通訳（院生）	4名
院生等家族	12名
その他	2名
計	41名参加

(3) 日程

9月16日（火）

・移動（成田→韓国仁川：事前に各自で航空チケットやホテルを手配）

9月17日（水）

・院生がソウル教育大学校を視察

9月18日（木）

・ソウル日本人学校を視察・授業参観
・移動（仁川→中国成都）

9月19日（金）

・本学院生と四川師範大学院生との課題研究発表会

9月20日（土）

・移動（成都→珠海）

9月21日（日）

・本学院生と北京師範大学珠海校区院生との課題研究発表会

9月22日（月）

・移動（珠海→広州）
・京師南奥実験学校、天河区洗村小学を視察

9月23日（火）

・本学院生と京師南奥実験学校教員との授業紹介、課題研究発表会

9月24日（水）～28日（日）

・各自帰国（台風による欠便のため、各自で代替航空チケットを手配）

3 活動

(1) ソウル教育大学校の視察

ア 期日

2025年9月17日（水）

イ 訪問者

新潟大学教員 2名

新潟大学教職大学院生 9名

ウ 会場

ソウル教育大学校、附属小学校

エ 視察後の感想

- ・環境整備で明るい雰囲気づくり
- ・特別教室の備品等の充実
- ・カウンセリングルームの設置



オ ソウル市内視察

ソウル市は、韓国の政治・経済の中心地で文化的施設も多い。参加者は国立中央博物館を見学し、食も含め豊かな韓国文化に触れた。

(2)新瀧大学教職大学院生と四川師範大学大学院生との課題研究発表会

ア 期日

2025年9月19日(金)

イ 発表者

- 新瀧大学教員 3名
- 四川師範大学教員 3名
- 新瀧大学教職大学院生 5名
- 四川師範大学院生 5名

ウ 会場

錦江賓館西楼2階 馨雨閣会議室

エ 発表内容

両大学教員6名が両国の教育課題について、院生10名がそれぞれ自分の追究

している課題研究について質疑を交えながら一人20分で発表を行った。

時間	報告者氏名・所属	主題 テーマ
9:15-9:35	薛巧巧(中国・四川師範大学教授)	大学を橋渡しとして理論と実践を結ぶ-教師を「学習デザイナー」として育成する
9:35-9:55	渡邊美雨(日本・新潟大学教職大学院生)	多様性をテーマとした授業モデルの開発
9:55-10:15	徐吉良(中国・四川師範大学院生)	学齢人口減少に対応する教育変革-中日コミュニティ教育の比較と展望
10:15-10:35	塩沢輝大(日本・新潟大学教職大学院生)	小学校体育授業デザイン: ネット型球技ゲームにおける状況判断
10:35-10:50	休憩	
10:50-11:10	鄧嘉楠(中国・四川師範大学院生)	AI時代の文化的限界と教育的応答: 批判的受容に向けて
11:10-11:30	山崎愛依(日本・新潟大学教職大学院生)	小学校国語(日本語) 説明文の授業実践方法
11:30-11:50	向輝(中国・四川師範大学院生)	大学生の批判的教授リテラシーが学生の学習能力を強化する価値、課題、実践経路
11:50-12:10	吉田隆(日本・新潟大学教職大学院特任教授)	次世代学校リーダーの資質と能力
12:10-13:00	昼食	場所: 錦江賓館西館5階 錦悦西洋料理レストラン
13:00-13:20	平直子(日本・新潟大学教職大学院生)	「生命安全教育」に関する一考察(性教育を中心に)
13:20-13:40	趙浩然(中国・四川師範大学院生)	人口変動を背景とした果域における義務教育資源の最適化経路に関する研究
13:40-14:00	大滝健太(日本・新潟大学教職大学院生)	学校統合における地域と学校の連携体制に関する研究
14:00-14:20	黄志翔(中国・四川師範大学院生)	教学的感情場: 新時代の道德教育における実践経路と革新
14:20-14:35	休憩	
14:35-14:55	田中一裕(日本・新潟大学創生学部教授)	授業設計書作成におけるAIの応用と課題
14:55-15:15	殷孟帥(中国・四川師範大学教授)	文化社会学の視域に基づく卓越したイノベーション人材育成の苦境と突破
15:15-15:35	雲尾周(日本・新潟大学教職大学院教授)	教育改革と研究
15:35-15:55	王曉彤(中国・四川師範大学教授)	大学ダンス美授業における異文化探索



四川師範大学の王安会教授からご指示いただき、急遽、会場を大学から錦江賓館ホテルに変更しての開催となった。本学院生は、自身が課題研究で取り組んでいる内容について発表した。四川師範大学院生からは、教師教育、人口変動に対応した教育改革、AIの利活用についての発表があった。現在の教育課題や取り組んでいる事柄で、両国に共通点が多いことを知る機会となった。また大学教員も、それぞれの研究分野における発表を行った。

(3)新潟大学教職大学院生と北京師範大学
珠海校区院生との課題研究発表会

ア 期日

2025年9月21日(日)

イ 発表者

新潟大学教職大学院生 5名

北京師範大学生・院生 5名

ウ 会場

北京師範大学珠海校区 文華苑7号館

102会議室

エ 発表内容

両大学の学生や院生合計10名が自身の
追究している課題研究について質疑を
交えながら一人15分で発表を行った。

時間	報告者氏名・所属	主題 テーマ
9:15-9:30	胡嘉輝(中国・北京師範大学教育学部院生)	中学校における学習力育成のための学校本位カリキュラム開発研究
9:30-9:45	山田和(日本・新潟大学教職大学院生)	子どもが必要感や前向きな意識をもてる外国語活動の授業づくりの検討
9:45-10:00	斉思賢(中国・北京師範大学未来教育学院院生)	高等学校英語教師のAIリテラシー現状とそれを高める方法に関する研究
10:00-10:15	佐藤楓(日本・新潟大学教職大学院生)	葛藤場面から自己を見つめ直す小学校道徳授業
10:15-10:30	李花(中国・北京師範大学未来教育学院院生)	プロジェクト型科学活動における教師の支持的持続的方略が幼児に与える影響に関する研究
10:30-10:45	休 息	
10:45-11:00	伊藤陽子(日本・新潟大学教職大学院生)	自分の言葉で語る力を育むむび合いのある国語授業―読みの質の高まりに迫る教師の介入の検討
11:00-11:15	趙志航(中国・北京師範大学教育学部)	アイデンティティ三角モデル理論に基づく中学校初任教師のアイデンティティ同一性認知に関するナラティブ研究
11:15-11:30	関谷将浩(日本・新潟大学教職大学院生)	体験型活動を取り入れた数学授業の実践
11:30-11:45	方彦(中国・北京師範大学未来教育学院大学院生)	中学校化学授業における協同的問題解決学習モデルの研究
11:45-12:00	大澤雄太(日本・新潟大学教職大学院特任教授)	チーム学年経営を円滑に機能させるための学年主任の役割



北京師範大学の呉忠魁教授、本学の相庭和彦教授、二人からは両国の友好と研究の推進についてご挨拶があった。北京師範大学院生からは、授業における指導の工夫や開発研究についての発表があっ

た。本学院生は、各自の課題研究に則した授業づくりや学年経営等に関する内容が発表された。

オ 珠海市内視察

珠海市は、地理的にも国際色豊かで数多くの産業や大学が集まる。

研究発表交流の後、珠海市博物館を見学。規模が大きく新しい建物で、湾が一望できる場所に立地している。珠海市の歴史・文化・海洋・民俗等、幅広く展示しており、国際的な雰囲気を感じることができる。



(4)広州市における一般校訪問

ア 期日

2025年9月22日(月)

イ 会場

広州市天河区冼村小学

ウ 内容

冼村小学は、高層ビルや商業施設が多く立ち並ぶ、発展した市街地にある規模の大きい小学校である。

中国では、授業中に児童が教師の話に熱心に聞いたり率先して挙手して発言したりする姿が多く見られる。冼村小学校の児童も同様である。日本の学校では見かけないが、薬毒ルームという違法薬物・ドラッグ等の危険性を学ぶ専門の教室がある。壁面に薬物に関する資料が掲示され、学ぶ環境が整えられている。

洗村小学校は、通常の授業カリキュラムの他に、児童が書道や美術、ダンス等の活動を選択して取り組むクラブ活動的な学習も行っている。経験豊かな指導者を配置し、子どもの個性伸長を目指している。



(5)新潟大学教職大学院生と京師南奥実験 学校教員による日中教育/授業交流会

ア 期日

2025年9月23日(火)

イ 会場

京師南奥実験学校

ウ 内容

前日、児童の合奏による熱烈的な歓迎を受けた。



翌日9/23は、当初、以下の5つのグループで南奥実験学校の児童を対象に授業公開を行う予定であった。

- ・3年国語：ひらがな、かるた遊び
伊藤陽子(M1)、山崎愛依(M2)
- ・4年算数：毒りんごゲーム(倍数)
平直子、山田和、渡邊美雨(M1)

- ・3年社会/総合：地域の良さを発見
関谷将浩(M1)、佐藤颯(M2)
- ・5年体育：フラッグフットボール
大滝雄太、大澤雄太(M1)、塩沢輝大(M2)
- ・2年生活：外国(日本)の文化を知る
相馬花音、岡部結衣、諸橋ひじり(創生学部)

昨年度からトピック的な授業の公開ではなく、日本で実際に行われている授業内容で公開してほしいとの要望があり、院生等は単元での学びを意識した授業づくりを行った。

しかし、大型台風の直撃により、児童が登校できず授業公開が中止となり、急遽、授業実践や研究内容を紹介したり、模擬授業を行ったりする標記交流会を行った。日本からは、伊藤院生と関谷院生が自身の課題研究について紹介し、創生学部生が南奥実験学校の教員を児童に見立てて日本を紹介する授業やゲームを行った。また、中国からは、総合学習とし



ての電気自動車の作成、英語での海外旅行での会話の仕方の授業が紹介された。

エ 広州市内視察

広州市は、広東省の省都で南中国を代表する大都市である。人口は約1,800万人で近代的な高層ビルが立ち並ぶ経済・商業の中心地。対外貿易の歴史も長い。

4 評価および今回の講義の特色

(1)単位認定

帰国後、参加した院生一人一人が自身の経験や学びを短編の記録動画に編集し、その記録動画をもって本講義の単位認定とした。この記録動画は、本講義の成果発表として全員で視聴した後、12月に行われた附属学校部、教育学部、教職大学院、全学教職センターによる合同FD研究交流ポスターセッションで授業紹介として公開し、好評を得た。

(2)教育事情の交流

韓国・中国との交流の中で、学校が抱えている教育課題については、日本と共通する部分が多かった。教育課程編成、担任制、少子高齢化、AIの利活用等について熱心に情報共有が行われた。

韓国では、児童の視点に立った学校づくり・環境整備が行われており、院生の中には、図書館やフリースペースの意義について改めて考え直す者がいた。中国では学校を訪問した際、その都度、児童から学校を紹介してもらったが、参加した院生からは、リーダー育成について、日本とは根本的な考え方の違いがあることを口にする院生もいた。

日本と諸国の類似点・相違点に、人を介して直接触れるこの授業は、本教職大学院の特色ある教育実践である。

(3)ビデオ会議アプリ（ZOOM）の活用

今年度の訪中でもビデオ会議アプリを活用して、日本にも研究発表交流の様子を中継し、日本で受講した院生もいる。前述したような中国の研究発表を聞いたことで、グローバル教育への関心の高まりが感じられた。

(4)復路飛行機の手配

予定では、9月24日（水）に帰国予定であったが、超大型の台風18号ラガサ（LAGASA）の影響を受け、ホテルに延泊。飛行機は全て欠便、市内の交通機関もすべて停止し、0:00以降の外出を禁ずる報道もされた。日本でもニュースに取り上げられた。

急遽、個々、家庭ごとにオンライン旅行予約サイト（Trip.com等）にて帰国便を手配し、帰国までの宿泊先を広州白雲交際空港付近に取った。そして、帰国の日となった家庭やメンバーからアジア各地（ホーチミン、ハノイ、杭州、上海、ソウル等）を経由する便で帰国した。

イレギュラーな事態ではあったが、全員が必然性をもって海外の空港や国際線を利用することとなった。いろいろな国の人に助けられ、優しさに触れる機会となったのはこの授業らしい一面と言える。

5 総評

韓国のソウルに始まり、中国に入ってから成都市、珠海市、広州市へと移動し、国による雰囲気の違い、各都市の様相や文化、生活習慣の違いに大いに触れる機会を得ることができた。ただ、どこへ行っても温かいもてなしを受けたことは、参加者全員が最も印象に残ったことに違いない。言葉の違いを超える交流ができたことが一番の収穫と言える。

